

UCI 大学カリキュラム・興味テスト（高校用 進路適性検査）

（株ネモト）

日本テスト学会 根本樹宏著

<p>テストの標的 画像ボタン 結果 1 2</p>	<p>本検査は全国の主要大学の各学部・学科で共通に使われている「授業タイトル名」（学問名）を問題項目として提示し、「その学問に興味があるか、ないか」を得点化して「26学部68学科」の「興味の強さ」を表示する高校用・進路適性検査です。</p>
<p>用紙・判定</p>	<p>問題用紙・回答用マークシート（コンピュータ判定料込み） [別冊]大学への招待（A4版45頁）付 1名分 税込900円</p>
<p>適用年齢</p>	<p>高校1年生以上（集団式：コンピュータ採点）</p>
<p>実施時間</p>	<p>50分</p>
<p>検査の概要</p>	<p>現代の高校生は「親の提示する目標」が「子の目標」となり、自分の「興味」「適性」も考えずに「偏差値」だけで大学受験を目指す傾向がみられます。ところが、大学に合格すると「履修科目の選択」で、初めて「自分が学ぶ学問名」を知り、「興味がない」ことが判明して、大学1年生の終わりに大量の中途退学者が出ることがカウンスリングの学会等で発表されています。</p> <p>「進路選択」において「好き」で「長続きすること」は大切な要素で、大学で「興味があること」を学ぶのと「興味のないこと」を学ぶのでは、「専門知識の量」や「職業能力」に大差がつきます。</p> <p>本検査は全国の主要大学の各学部学科で、共通に用いられている「授業タイトル名」（学問名）を取り上げ、「テスト理論（古典的真値理論）」に基づき、「通過率」や「点双列相関係数」を検討し、「因子分析」を行って「その学部学科の代表的な学問名」を「問題項目」として出題しています。選抜された「大学の学問名」を高校生に「総当たり」させ、26学部68学科に分けて「自分の興味の方向」を探索させようという進路適性検査です。</p> <p>本検査には「別冊・大学への招待」（A4版46頁）が付き、「コンピュータ判定のテスト結果」と連動して「興味のある学部学科は、何を学び、何の専門家を養成する学部・学科なのか」という「解説」や、その他の「専門科目」、「取得できる資格」、「職業」等の情報が掲載してあり、「大学とは何を学ぶところか」を掘り下げて考えることができるよう構成してあります。また、自己効力感テスト（自分はこれくらいのことのできそうだ、という自信の尺度）が偏差値表示されており、「自信のない生徒」は認知行動療法により「自信のつけ方」を学ぶことができます。本検査は大学進学に関する「自己理解」情報を得て、「自分は大学で何をしたいのか」を考える「手がかり」を与える本格的な進路適性検査です。</p>